

Jazz Guitar Lesson

For Jazz Beginner 【3】



Mistletoe Music School

<YouTube 動画URL>

<https://youtu.be/NIsDI9syPuw>

ロックギタリストのための

ジャズギター入門シリーズ！【3】

ジャズに初めて挑戦する方を応援する「ジャズギター入門シリーズ」第3回目は「挟み込みのアプローチ」「ケーデンス」「コードトーンの導入」「Circle of 5thの把握」がテーマになります。今回は少し理論を説明します。「理論」と聞くと拒否反応が出てしまう方もいらっしゃるかも知れませんが、私が10代の頃、当時ロックをやっていたしまして、友人が「理論を学ぶなんてダセェ」と言い放っていました（当然、今は音楽業界におりません）理論と呼ぶと難しそうですが、音楽理論は「スポーツのルール」を学ぶようなものと思ってください。

自由にボール遊びをしても十分に楽しいですが、ルールの上で競うことでより楽しく、また勝つための戦略が生まれます。音楽だってルール（理論）を知ることにより深く楽しめるようになります。過去の音楽を偉大な先人達が整理したものが音楽理論です。ただ、音楽はスポーツと違い、勝ち負けはありません。ルール違反が新しい音楽となる可能性だって秘めています。堅苦しく考えずにまずはトライしてみましよう。

達成目標：1週間以内

【伴奏課題】

－ 挟み込みのアプローチ －

前回までは拍を先取りするアンティシペーションのアプローチを学んできました。今回は、ターゲットである次の小節のコードへ半音上下から挟み込みます。このアプローチを「ディレイド・リゾルブ」と呼びます。この時のポイントはターゲットのコードと同じ型を使用することです。それではやってみましよう。

Ex) C7の場合

D \flat 7 B7 C7

Ex) F7の場合

G \flat 7 E7 F7

Ex) G7の場合

A \flat 7 F#7 G7

- 実例 -

4拍目の裏から次の小節の頭へスライドをするとスムーズに演奏出来ます。常にターゲットとなるコードネーム（赤枠で記載）を意識しましょう。

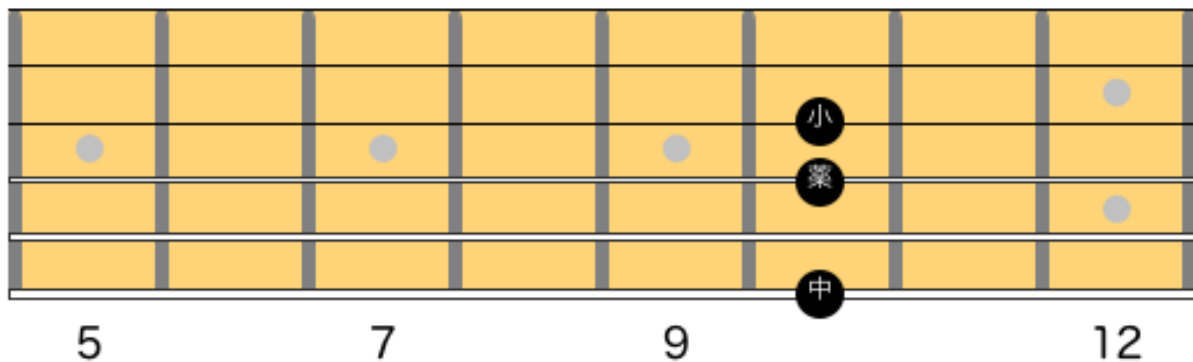
- ケーデンス（終止形） -

コードの流れ（コード進行）が音楽に必要な「緊張と緩和」を繰り返すことで、映画のようなストーリーを展開しています。もちろん、音楽を形作る要素はコード進行以外にも沢山ありますが、様々な世界観を表現する際にコード進行が担う割合は大きいものです。ケーデンス（終止形）とは、映画の中で主人公が1つ1つの小さな問題を解決していく流れ「問題と解決」のようなもので、音楽上の「緊張と緩和」だと思ってください。

ブルース進行の中でのケーデンスは3段目（9、10小節）です。Key=Cのブルースであれば、「G7-F7-C7」がブルースらしいケーデンスです。ジャンルによって様々なケーデンスが存在しますが、ジャズでは「ツーファイブワン」と呼ばれるケーデンスが多く使用されます。「ツーって何？」「ファイブって何？」それはいずれ説明しますが、今回は丸覚えしましょう。「Dm7-G7-C7」です。

- 新しく登場するコード -

Dm7コードの押さえ方は下記がオススメです。これまでに学んだコード同様、3弦に小指を固定することで、コードチェンジをする際のバタつきを最小限に抑えます。



- 実例 -

先の伴奏課題（ディレイド・リゾルブ）も取り入れて演奏してみましょう。ツーファイブワン進行でも、第1、2回で取り上げたアンティシペーションも練習してみましょう。

Chord progression for the first system: $D\flat 7 B 7 C 7$, $G\flat 7 E 7 F 7$, $D\flat 7 B 7 C 7$, $D\flat 7 B 7 C 7$, $G\flat 7 E 7$.

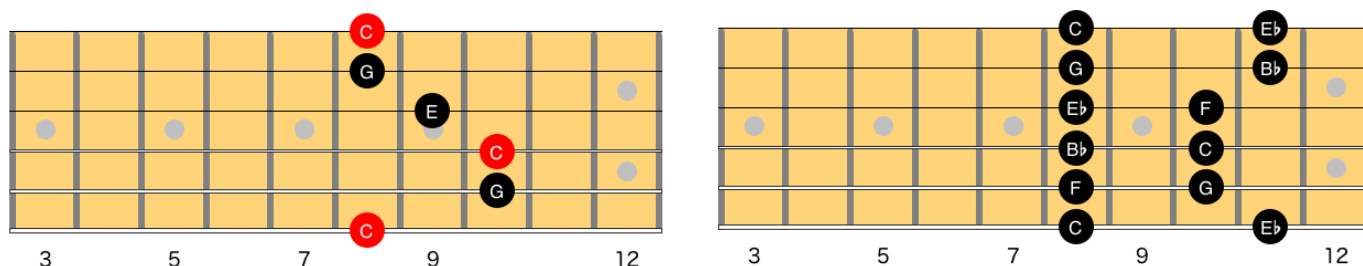
Chord progression for the second system: $F 7$, $G\flat 7 E 7 F 7$, $D\flat 7 B 7 C 7$, $D\flat 7 B 7 C 7$, $E\flat m 7 C\# m 7$.

Chord progression for the third system: $D m 7$, $A\flat 7 F\# 7 G 7$, $D\flat 7 B 7 C 7$, $A\flat 7 F\# 7 G 7$, $D\flat 7 B 7$.

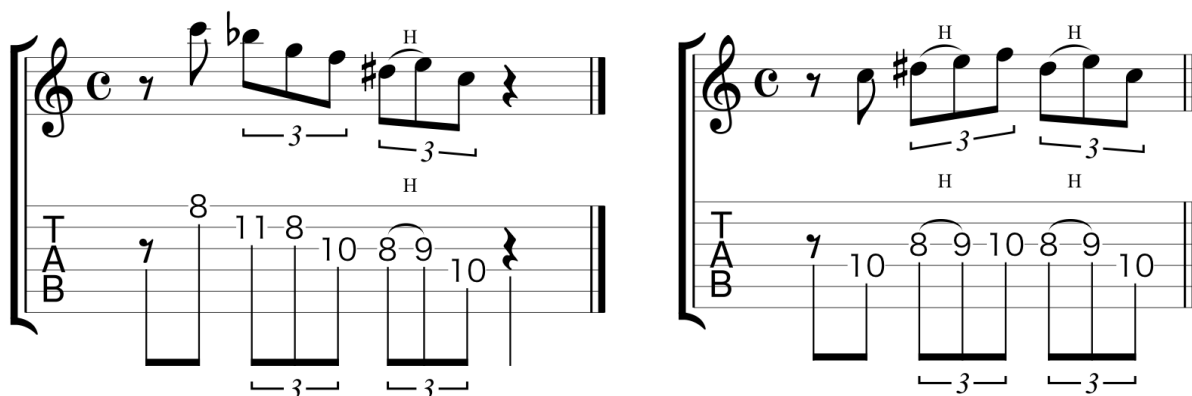
【ソロ課題】

－ ペンタトニック 1 発からの脱却 －

ジャズではコードに沿って音を選択していきませんが、これまでのソロの課題は小節の長さを感じ取ることに意識をおきました。今回からソロにコードトーンを導入していきましょう。下記、C のChord ToneとC minor Pentatonic Scaleを比べてみましょう。



C minor Pentatonic ScaleにはChord Tone (CとG) は含まれていますが、Chord Tone (E) が含まれていません。まずは、弾けているC minor Pentatonic ScaleにChord Tone (E) を導入しましょう。「ジャズではコードトーンが大事だから！」といきなりコードトーンだけのソロを取ってしまうと自由度が全くなくなってしまう。一気に全てを変えてしまうのではなく、1つずつ使い方を覚えていきましょう。



「CのChord をF7とかG7での上で使用しても良いの？」と疑問に持たれた方は、ジャズをよく勉強されています。今回は全て「C Chord」で構いません。



- 演奏サンプル -

Ex.1

Chords: C7, F7, C7, C7, G \flat 7 F7, F7, F7, C7, C7, C \sharp m7 Dm7, Dm7, G7, C7, G7, D \flat 7 C7

Ex.2

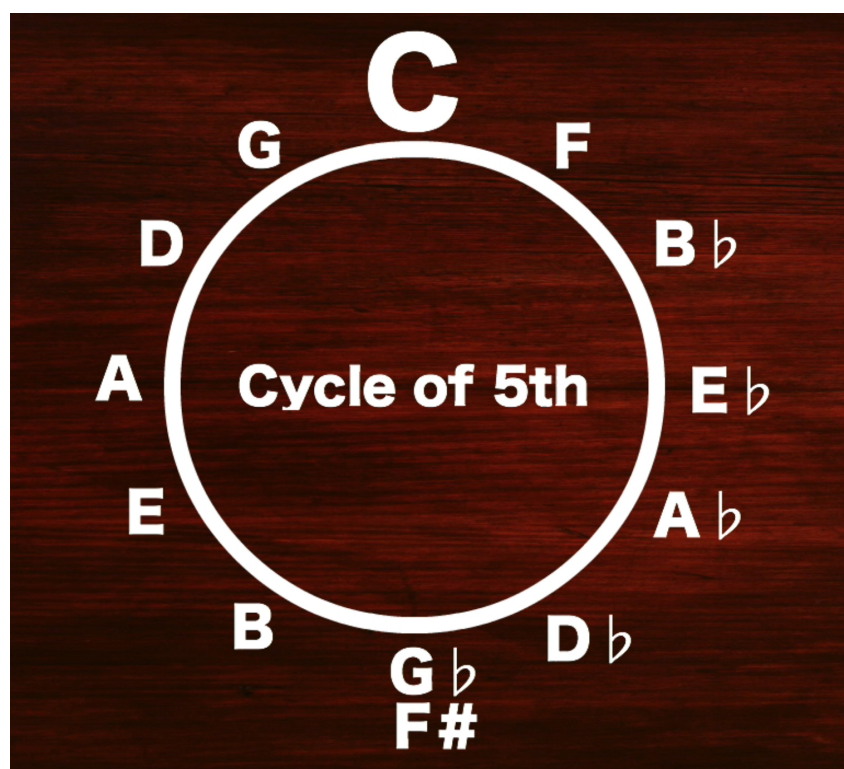
Chords: C7, F7, C7, C7, G \flat 7 F7, F7, F7, C7, C7, C \sharp m7 Dm7, Dm7, G7, C7, G7, D \flat 7 C7

【基礎課題】

－ Circle of 5thの把握 －

前回、トレーニングしたC-F-B \flat -E \flat -A \flatという動き、「何かパターンがあるな!」と思われた方は大正解です。実はこの動きは5音ずつ下降しています。指を折って数えてみてくださいね。「ドシラソファ」「ファミレドシ」「シラソファミ」....ほら、フラットが付いてはいますが、5音ずつ動いていますね。

この動きを円のように繋いでいくと、時計のように元の音に戻ってくる事が出来ます(下記の表を右回り)これを「Circle of 5th」、日本名では「5度圏」とか「強進行」などと呼ばれます。この動きはジャズに限らず音楽では頻繁に登場するベースの動きです。今回の伴奏課題「ツーファイブワン」もCircle of 5thですね。今回は指板上で動くゲームです。



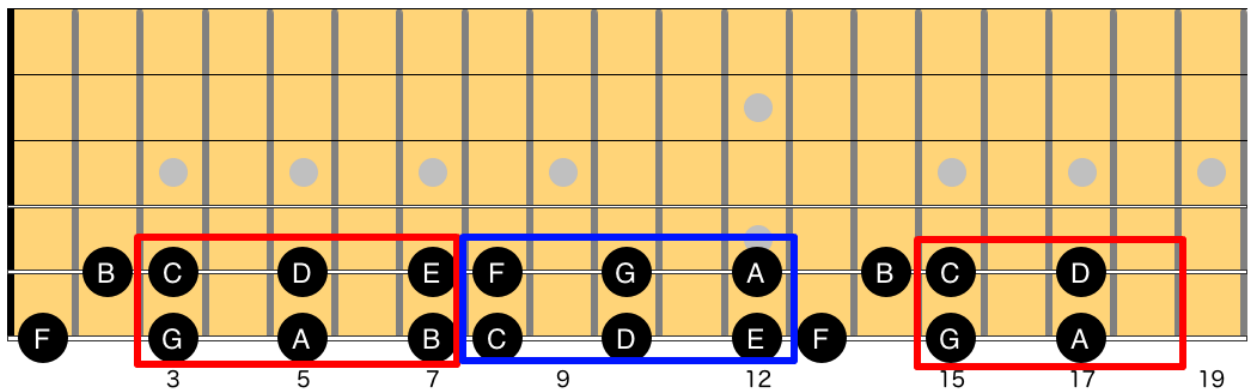
私が学んでいた頃は「Cycle of 5th」と習ったのですが近年は「Circle of 5th」が一般的なようです。



- 5、6弦上の音の理解 -

前回までのトレーニングはスタート位置を指板上の動きで覚えてきました。今回は Circle of 5thの動きであれば、指板上のどのポジションを使用してもOKです。常に次のコードを声に出しながら練習をしましょう。

基礎練習はゆっくりやれば必ず出来る内容です。テンポが上がれば出来ないのが当たり前です。「当たり前なこと」、「決まっていること」、それらをスムーズに導き出せるようになるのが基礎練習の目的です。「今日はBPM100まで弾けるようになった」「今日はBPM110までいけた」とテンポを目標にしても良いと思います。万人に合う練習方法はありません、自分なりにモチベーションが維持出来るように工夫しましょう。因みに私の基礎練習は「時間縛り」です。1日5~10分しかやりませんが、でも毎日やります。サボりません。長時間やるとストレスですし、毎日コツコツ積み立てることが大切です。



ギターの指板は迷路みたいですよ。音名がまだスムーズに読めない方は#とか♭の位置は無視して、ドレミファソラシドが配置されている位置の規則性を考えてみましょう。これも、覚えるための工夫ですね。

▼投げ銭応援箱

<https://www.paypal.me/mistletoepay/1000>

Paypalを使用した投げ銭箱です。額は自由に変更できます。まだまだ制作頑張ります。応援、宜しくお願い致します。

